

2023年度 鳴門市ドイツ館 板東俘虜収容所講座 受講生募集

板東俘虜収容所に関する5つのテーマでドイツ館スタッフがお話します。

第1回
9月30日(土)

～ハンザ同盟と鳴門の姉妹都市
「ハンザ都市・リューネブルク市」～

講師：ダリオ・シュトライヒ（ドイツ館 職員）

ドイツ人捕虜の殆どは解放された後、船に乗り、祖国の港へ向かいました。海と関わりの少ないドイツですが、エルベ川等、豊富な河川にある都市を中心に、中世から貿易や商業の目的でヨーロッパの水路を発展させたハンザ同盟が誕生。本講座では、ドイツ海兵が深く関わったドイツの港町とハンザ同盟について勉強しながら、鳴門の姉妹都市で、製塩で栄えたハンザ都市リューネブルク市にも焦点を当てます。

第2回
10月7日(土)

徳島で葬られたドイツ兵捕虜たち

講師：森 清治（ドイツ館 館長）

板東俘虜収容所では、ドイツ兵捕虜を収容した2年10ヶ月の間に9名が亡くなっています。しかしながら徳島に残る墓は2名のみで、それ以外の所在はわかりません。今回の講座では、捕虜の死亡と疾病に関する記録から、徳島市蔵本町に本拠を置いた歩兵第62連隊と収容所の関係を整理します。

第3回
10月21日(土)

青島市 古い建物の旅

講師：呉 世康（鳴門市国際交流員）

青島市は第一次世界大戦アジア唯一の戦場です。今でも多くのドイツ系の建物が残されています。それらの建物が青島市民の生活に溶け込み、今の青島に成り立っています。ここは旧市街と呼ばれ、世界遺産登録を目指しています。現在はどんな様子と役割をしているのか、一緒に歩きながら探ってみます。

第4回
11月4日(土)

近代日本の捕虜政策と「板東俘虜収容所」1
— 日清戦争から第一次世界大戦 —

講師：長谷川 純子（ドイツ館 学芸員）

明治維新(1868年)からみる近代日本軍の捕虜の取り扱いを中心に取り上げます。そこから見た「板東俘虜収容所」とはどのような存在であり、世界からどのように捉えられるのでしょうか。近代日本の捕虜政策第1回として、前半の明治維新から大正9(1920)年までの主に3つの戦争に焦点を当てます。

第5回
11月18日(土)

板東とその他四国の捕虜収容所での音楽活動

講師：川上 三郎（徳島大学名誉教授・前ドイツ館館長
鳴門市ドイツ館資料アドバイザー）

板東俘虜収容所はベートーヴェンの第九交響曲のアジア初演があったことで知られていますが、ドイツ兵士たちの音楽活動はそれにとどまらずもっと多彩で、楽曲も数多く演奏していました。それは板東以前の徳島・丸亀・松山の収容所でも同じでした。今回、彼らが日本に来てから板東に至るまでの音楽活動を概観してみます。

開催場所 鳴門市ドイツ館 1階大会議室
鳴門市大麻町桧東山田 55-2

開催時間 各講座とも午後1時30分～2時30分

申込不要・参加費無料

お問合せ先 鳴門市ドイツ館 088-679-9110

